

刊夕日七月三



定価 一ヶ月五拾圓 三ヶ月一拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾圓 郵費別 印刷所 常務理事 日新新聞社

# 信心獲得

眞 繼 雲 山

世人のうちには、信心とは神佛を信ずることだと思ふてゐるものがある。佛壇の中に佛様がゐたまふか否かは分らぬ、が鬼にかく有ると信じて置かうといふのである。また、左様に拜むものを佛様が果たして救ふて下さるか否かは分らぬけれども、信じたなら救はれるといふ話だから鬼もかく信じて見ようといふ意味で左様に信ずることが謂はゆる信心だと考へてゐる人がある。

しかし佛教にいふ信心とはそのやうな人に架空の想像を教ふるものではない、況んやその想像を逞しうすることを強ふるものではない若しそのやうな架空の想像が信心であるならば、その想像がこわれたときには同時に信心がこわれてしまうことになる。信心とは、そのやうな有るか無いか分らぬやうなアヤフヤなものや信せよといふ想像の押し賣ではない。

『信心』とは、疑ふ代りに信用するといふ意味ではなくして佛教にいふ、『信心』とは『まことの心』の意である。その『まこと』とは『佛の心』の意である。即ち知るべし、信心とは、佛心を得るの意である。

經には見性成佛とあつて佛性を徹見することが成佛する所以であると教へられてゐるが、親鸞聖人は分りやすく更に一步を進めて『信心獲得』の文字をもつて示し、まこと忍を己れの胸の中に取り込むことそれが信心であると申してゐられる。信心獲得の理義は極めて明白であつて信心とは佛の心を遠方から考へたり眺めたり想像したり疑つたり、信用したりといふ、そんなことではなくして佛の心を獲得し取り込むことである。その出来たのが往生であり、成佛である。

親鸞聖人は、その往生や成佛は、とても凡夫の自力では叶はぬまことの心が現はれるといふのは、佛様の

回向によるものである。佛様からの賜物であると申された。それが他力の信仰である。

然らば、その信心とは何ぞやといふに聖人は更らに『それは疑ひなく思ひはかることなき心』であると申されてゐる。則ち『無疑無慮』が信心といふこととなる。禪にはこれを本来の面目はいひ、眞言宗ではこの境地を大圓さう心月輪などとも言ふてゐる。

その信心とは、團子のやうな個形ではなくして、盡十方界に圓融し遍滿し共通したものであり、從つて始めなく終りが無い。固よりして不生不滅であり、有無の境を超えたものである。

同時に凡聖と生死を超えた一味のものである信心獲得とはその一味の心境の體得に名づける。凡夫の自力計度分別、妄想をはなれ得ばその一境に到り得るであらう。

高月會句抄 (五) [二月例會]

風切れて空しき糸の木にからむ 胡野  
風一陣字風繪風の極むかな 天野  
大風ののどかに泳ぐ虚空かな 良亭  
青天に日の出の餘風澄みにけり 紅果  
雲一重ちされて風のうなりかな 芝草

平町鍛冶町吉田屋 服店西隣り  
**歯科** 口腔外科 齒槽膿漏科  
治療科 補綴科 齒列矯正科 齒列

◇受付は午前八時より午後八時まで  
但し急患者は此の限りにあらず

東京齒科醫學士 中村文一

中村齒科醫院

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)

大和田醫院

小兒ノかんむしニあかひき丸堀藥局  
平町二丁目 電話三二六

## 生徒募集

- 一、卒業年限 兩科通ジテ一ケ年
- 一、入學資格 高等小學卒業又ハ同等ノ學力アル者へ無試験入學ヲ許ス
- 一、申込期日 四月八日迄

平一丁目

石城産婆學校

校長 鷹崎千代

電話三五七番

堂々

斯界の群を抜く

セリザワタクシー

最高級車プロモス號増車致しました  
何卒御用命の程御願ひ致します

電話三九五番

## 藤田女學校生徒募集

- 一、本科 五十名
- 二、裁縫專修科 百名
- 三、師範科 三十名
- 四、專攻科 二十名
- 五、本科 裁縫專修科二年補欠編入若干名

(新設)選科(晝間部)五十名  
(夜間部)三十名  
右希望者ハ至急願書提出ノコト  
詳細ハ本校宛學則請求セラルベシ  
昭和七年三月

福島縣平町田町

文部大臣 藤田女學校

電話三二八番

旭硝子株式會社製品  
板ガラス

製造賣販  
硝子食器  
菓子壺  
其他各種

松崎硝子製作所

◇支店工場 仙臺市榮町 電話五九四番  
平町新川町(電話一四二番)



# 平小唄

## 振り付けは...

### 花柳徳之輔氏に

平小唄の曲譜は川崎本社長 夫妻が作曲者町田嘉章氏に 直接傳授されて昨夜十二時 歸平したが一方藝妓 屋組合にては同小唄を櫻花 時の呼び物とする爲め既記 の如く品澤及び眞佐の家の 各女將外一名が町田氏より 三絃曲及び夫れに合した賑 々しい太鼓、小鼓等鳴り物

# 二兒を連れ

## 女ルンペン漂泊 平役場へ泣込む

昨日午後一時頃平役場へ二 名の幼兒を連れ女ルンペ ンが旅費の恵與を願出たが 同人は田村郡森山町宇田出 生れ佐藤トク(三)で數年前 勿來町の大本炭礦に就職 中の夫と死別したので後山 婦となり十二才と四才の兩

# 義勇號寄附金

## 千二百圓突破

既報義勇機「福島號」建造資 金募集中である平在郷軍人 分會の成績は時節柄成績良 くと本日迄に豫定額たる千六 百圓のうち千二百圓餘に達 したと

# 選挙費

## 三代議士届出

佐藤・比佐、鈴木各當選 代議士の届出選挙費用左

記の如くある  
△佐藤氏(總額)六千八百六 圓六十四錢(内譯)車馬賃 一千三百八十五圓十一錢 印刷費九百七十五圓八十 一錢、通信費一千四百八 圓六十九錢、集會費三百 三圓五十錢  
△比佐氏(總額)三千四百卅 四圓廿五錢(内譯)車馬賃 五百九十二圓六十七錢、 印刷費六百九十九圓卅三 錢、通信費三百七十八圓 七十八錢、集會費四百卅 二圓卅三錢  
△鈴木氏(總額)六千四百卅 八圓八十五錢(内譯)車馬 賃一千六百一圓三錢、印 刷費一千四百八十七圓卅 三錢、通信費七百卅三圓 八十錢、集會費三百五十 五圓

# 名前が九九で

## 年齢は四四

### 廻り合せが悪くて失業 暴れて檢舉さる

昨夜八時頃南町辰ノ口酒店 へ労働者風の男が尋ね失業 して郷里へ歸るのだが旅費 が無いからと無心を云ふの で店員が斷ると暴行をせんとするのを巡廻中の平署員 に檢舉されたが同人は宮城 縣勝田郡宮村生れ土工大谷 九十九(四)と云ふ失業者で あるが他にも數軒に亘つて 旅費の強要したのを自白し たが目下取調中である

# コン泥の常習

## 又もや捕る

數回コン泥犯人として平署 に檢舉されに南會津郡江北 村生れ住所不定窃盜前科三 犯目黒平三郎(三)は昨六日 午後九時頃好間村町田好間 炭礦會社發電所に忍入り黒 サージ洋服一着を窃取して 平署に檢舉されたが他にも 十五六の窃盜を行ったので 目下餘罪取調中である

# 卒業式の 臨席課長

## 磐中と磐女

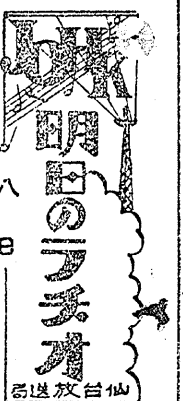
既報七日の磐城中學校卒業 式には本縣知事代理として 西岡教育課長が臨席するが 十八日の磐城高等女學校の 卒業式には末原學務部長が 臨席すると

# 詩南社

## 復活號は

### 四月一日發刊

昨日短歌會を開催 平町を中心とする文學愛好 家の手に依つて組織されて ゐる詩南社は既記の如く小 山田滋氏が入山炭礦に轉勤



今朝氣天 今晩は南風の風 曇明日は北西の 風に變り晴

# 今晚の部

後六、〇〇(子供の時間) お話「河工學士金森誠之 後八、〇〇 薩摩琵琶「吉 岡大佐」榎本芝水 後八、四〇 レヂュー「サ ルタンバンク」寶塚少女 歌劇月組 後九、三〇(奉天より) 後九、四〇 全國ニュース

# 明日の部

氣象通報 番組豫告 前九、一〇 料理献立「メ ンチスノーエッグス」朝 倉長吉 一〇、三〇 家庭講座「味 噌の營養價值」農學博士 佐々木次郎 後〇、〇五 獨唱と管絃樂 淡谷のり子 コロナオー

# 自轉車

## 飛ばさる

なされたので同氏歓迎を兼 ね第四回短歌會を昨日午後 一時からマルトモホールに 開催終つて幹事會に移り種 々相談の結果高久晚露、小 山田兩先輩指導のもとに再 び機關誌詩南車を復活させ る事に決定復活第一號(第 二十九輯)を四月一日發刊 する事になった尙二十日夜 高久氏宅に於て同社同人會 を開催の筈

石城郡内郷村字宮嶺井自動 車店運轉手小鉢利秋(三)は 五日午後七時頃平町町橋 本屋糸店前をトラックを運 轉進行中前方より自轉車で 向つて來た田町深谷方鈴木 正次(三)をハネ飛ばし全治 一週間の傷を負はした

# 幼生不動

## ガンの火で

石城郡内郷村字宮嶺井炭礦 坑夫長家井五號居住高橋兼 吉長男慶治(三)は五日午後 三時頃家人の不在中附近の 子供三名と自宅内でガンの火を起した際慶治は 誤つて其中に轉落大火傷を 負ひ絶命した

# 松の木で縊首

## 不治の梅毒を悲觀

石城郡赤井村字中鹽石田祐 次の弟忠吉(三)は不治の梅 毒にて昨年春より失業し兄 附近の松の木に帯を掛けて 自殺をした

ケストラ 後二、〇〇 家庭大學講座 「心得置くべき醫學の知識(十一)醫學博士 平松 鶴吉 後六、〇〇(子供の時間) 童話劇「椿」 胡蝶座 後七、三〇 講演「趣味と しての香道」峰谷貞靖 後八、〇〇 清元「六歌仙 容彩」清元延玉葉外 後八、三〇 小唄 春日と 壽外 後八、五〇 獨唱 マチー エステレビタリオン ケ ートアイハンセン 後九、三〇(奉天より)

# 求人部

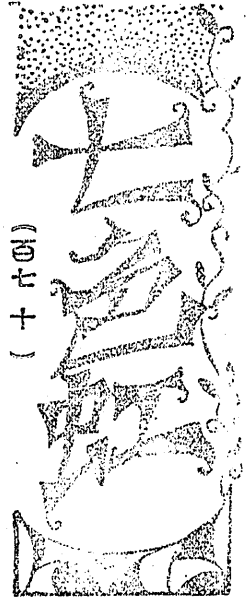
△風呂番 四十才迄五月五圓 位(平町某風呂店) △女中 卅才迄尋卒 月十圓前後(東京市某) △農夫 卅才以下、尋卒 月八圓位(高久村某) △出前持 廿才前後、尋卒 給料面談(平某とばや) ●求職の部 △事務員 廿三才、中卒 給料面談(内郷村某) △採炭夫 廿五才、尋卒 給料面談(好間村某) △庶務 四一才、尋四修 給料面談(北海道夕張町 某) △雜夫 卅六才、尋五修 給料面談(好間村某)

# 科人婦科外 院醫坂井

町田町平 番九五五話電



小説



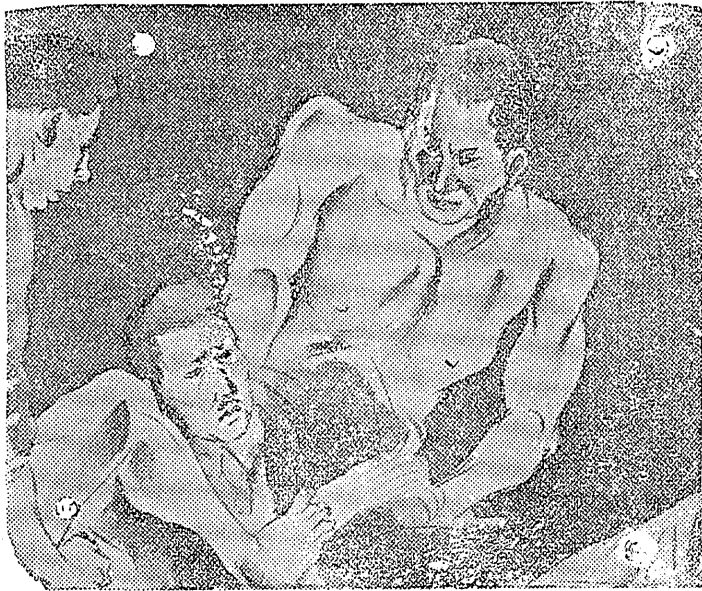
【載轉禁】

破綻 (5)

と、其處から少し離れて海岸に一軒だけ淋しく立つてゐる掛茶屋があつた。ちようど其際土地の漁師たちが三四人落合つて酒を飲んでゐるとふと郁子の叫び聲が聞えて來た。

渡邊 默禪 作  
布施平八郎 畫

皆な面白半分には駈け出した、見ると二人の男が組んづ群れづして砂の上で捻合つてゐた、其傍にうろ／＼してゐる女……それが漁師たちが行知つてゐる別荘の奥さんだつた、郁子が指さしたるのですぐと相手がつた皆なで高野を取詰めて袋叩きにした、そして手拭で後手つこにしばりあげて郁子を救ひ出して高野と格闘した男はやはり川島秀雄であつた。



一馬鹿野郎、身の程知らぬ蛆虫とはさまのこどだ、相手も人に依る、この奥さんを脅迫して自分の物に爲ようなんてえのは、物干竿で空の星を叩き落さうとするより最つと與太つた考へだ、十文字にゐる頃は凡ての機密も打明けくらゐにして、あれほどに此奥さんから引立て、貰つたのに、その恩を仇にして双物なんかひねくり廻すとは、**何處**

傷右の腕も出血するほど擦むいたそれを手巾で抑へながら喘みつきさうな見幕でこゝろ罵り立てた。でも高野は何にも言はなかつた、俯向き加減にハッハッと呼吸をはづませてゐるに過ぎなかつた。

「おい誰か此奴を駐在所ま

で引張つてつてくれ、酒代はウンと奮むから」  
川島は漁師たちの應援で高野を土地の巡査部長出張所へ突出した、そして郁子の代人として正式に告訴した。

彼は事實上未亡人の後見人であつたので高野の事も郁子から聞いて彼はよく知つてゐた、彼の怖るところは郁子を脅かされるといふことよりも十文字商會の支配人時代に於てゐる／＼な自分の秘密を高野が知つてゐるので、若しもそれを利害關係者の誰かに喋り立てられてもすると意外の破綻が出てくるといふ一事であつた。

川島は困りぬいて何をか名案と首をひねつてゐた矢先、こん晩別荘を訪れると奥さんは先程お一人で海岸の方へ散歩に出られましたといふ召使ひの言葉に直と跡を追つていつて想ひがけなくも此椿事に出會したのであつた。

御用命は總の印刷物  
常磐毎日印刷株式會社  
電話三六〇番

時は春!!!  
新入學生の通學に……  
◎ゼヒ必要な時計を……  
営業種目  
時計 眼鏡 指輪 電燈 其他貴金屬  
白寶堂時計店  
(へ向店服吳橋譜)町川新町平

セメント 壁用材料  
コールタール  
ペンキ塗料  
板ガラス  
西村屋藥舖  
平町二丁目電三〇  
花柳病科 專門  
木村外科醫院  
平町五丁目橋際  
電話三〇九番

貸切は……  
セダン揃ひで  
貸切専門の  
昭和タクシーへ  
電話三四三

磐城名産  
鰯節と鹽  
魚問屋  
店理代平命生本日大最優最  
榮盛賀志  
番一二三電 目丁四平

時計眼鏡  
トキワヤ  
平一電三三九

誠に便利な  
商品券  
金額の多少に不拘調  
製致します  
平町南町  
鳥肉商 鳥菊